

今月の谷口雅春先生のお言葉

「できる」と信じぬけば必ずできる

精神一到とはどういふことか

「精神一到何事か成らざらん」という諺がございます。この言葉はありふれた言葉であり、一心に心をこめてやれば、何だつてできないことはない、というふうな意味に考えられておりました。そうです、一心に心をこめてやれば、何だつてできないことはないのです。しかし、その「やる」とはどうすることでしょうか。皆さん、これを考えてみたことがございますか。(中略)

「精神一到何事か成らざらん」——この言葉のどこにもコツコツと勉強せよというような所はありません。「精神一到」であつて、精神が第一です。心が第一です。

「一到」というのは一ぺんだけちょっと考えるというよ
うな、力の弱い考えではありません。「一到」の「到」
の字は「到る」という字でありますけれども、この字を
分析してみますと、「至」と「リ」になります。「至」
は至極であり、最後のギリギリまで至ることであり、
「リ」は「立刀」であり、刀を縦にして刺し貫く形をあ
らわしています。最後のギリギリまで一つの心を以て貫
き通すことが「精神一到」であります。「心がいつぺん
その方へ振向く」ぐらいではまだまだ精神一到ではあり
ません。一度心をその方へ振向けたら、目的を貫き通す
まで心を変えないでいなければ「精神一到」ではありま
せん。
(光明思想社版『人生読本』304～306頁)

「これはできる」と貫き通すこと

では皆さん、「心を変えない」とはどうすることですか、もう一ぺん考え直してみましよう。「心を変えない」とは、「心」に一ぺん「これはできる」と思ったことは、それを「貫き通す」まで、いついつまでも「これはできる」と心に描いた考えを捨てないことです。何でも心の中に「これはできる」と心に画を描くように思い浮べた考えが、やがて形になってこの世の中にあらわれてくるのですから、「これはできる」と一旦きめた考えを捨てなければ、それは必ずできるのです。

「そんなこと位は初めから知っていた。だから私は『これをしよう』と思ったらいつまでも心を変えずにやってきましたが、やっぱり運が悪いことに変わりはない」とお考えになる人もあります。けれども、そうおっしゃるあなたの考え方は、私の考え方とたいへん異なります。私は「これはできる」という考えをいつまでも捨てないで貫き通すことが「精神一到」だと申しました。ところがあ

なたは「これをしよう」という考えはいつまでも捨てずにいるが「運が悪い」と言われます。あなたの考えと私の考えとがどれだけ異うか、太い活字で書いたところを比べてください。

私は「これはできる」という考えを捨てるなど申しました。あなたは「これをしよう……しかしできぬ、運が悪い」と言っているのです。

「運が悪い」とあなたがおっしゃるのは、「これはできぬ」という考えが混っているのです。私の言う「これはできる」という考えとはまるきり反対ではありませんか。

(光明思想社版『人生読本』307～309頁)

「成ろう」と「成れる」との相違

「これはできる」という考えの中には、「できる」という考えのほかにも混ぜ物がありませんが、「これをしよう」という考えの中には、「これをしよう、しかしできないかも知れない」という考えが混っているものなのです。「これをしよう」と考えるだけの「精神一到」

では必ずしも成功しないのは当たり前です。入学試験に行く人たちは皆「この試験にパスしよう」と思っているのです。しかし、皆が皆まで試験にパスしないのは、「パスしよう」という考えはあっても、「パスできる」と本当に信じている人が少ないからです。「しよう」とか「成ろう」とかという考えよりも、「できる」とか「成る」とかという考えの方が力が強いのです。

誰でも偉い者に「成ろう」とは思うのですが、そのうちの極わずかな人だけしか偉くなれないのは「成ろう」と思う考えは捨てないくせに、「成れる」という考えを何時の間にか捨ててしまうからです。そしていつの間にかそんな人は、

「成ろうと思うけれども成れぬ」と言うのです。そして、そういう人はとうとう偉い者には成れぬのです。

これで「成ろう」と「成れる」との相違が判ったではありませんよ。
(光明思想社版『人生読本』309～310頁)

「なれる」と思うものになれる

皆さん成功の秘訣も、立身出世の秘訣もここにあるのです。「精神一到」とは、どこどこ迄も、ただ成れる——成れるで突き貫すことです。

「心」で「成れる」と信じたときには、心のフィルムではすでにそう成っているのです。心のフィルムに描かれたことは必ず活動写真(編註・映画のこと)に映し出されるように、この世の中に本当に出てくるのです。しかし、自分がこうあって欲しいことがまだ本当に出て来ないうちに、「成れる」という考えを捨ててしまつて、「成れぬ」という考えにいつの間にか成つてしまつたら、その「成れぬ」という考えがこの世に出てくるのですから、運は悪くなるのは当然です。(中略)

人間は、なりたいたいものになれるのではなく、なれると思うものになれるのです。

人間は、しようと思うものが必ずしもできるのではなく、できると思うものが必ずできるのです。運がよくなり、偉くなり、達者になり、立身出世できるようになるには、精神の生かし方を知らねばなりません。

(光明思想社版『人生読本』310～317頁)